

## 「生き抜く力」を育む園小中一貫教育

### 部活動の地域移行について

全国的に少子化が進む中、多くの学校で部活動を維持することが困難になってきています。また、部活動以外の場でスポーツや文化芸術活動に取り組む中高生も増えてきました。指導する教員も、競技・活動経験のない部活動を担当したり、休日の指導や大会引率を行ったりすることが大きな業務負担となっている実態もあります。

こうした状況をふまえ、国からは少子化の中でも将来にわたり、中高生がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保することを目指し、地域移行の方針が示されました。そのため、従来の部活動に代わり、地域のスポーツクラブ等が子どもたちの活動の受け皿となることが求められています。

日南町では令和5年度から「日南町部活動地域移行検討委員会」を立ち上げ、「日南町部活動地域移行推進計画」の策定に向けて話し合っています。今後は中学生が部活動の代わりに日南町で現在活動されているスポーツ・文化芸術団体に参加するなど、部活動に縛られないスポーツ・文化活動を目指しています。これを実現するために保護者の皆さま、地域の皆さまのご理解とご協力をお願いします。

# 社会教育あれこれ

みなさんは、美術館に行ったとき「作品をどのように観たらいいのかわからない」と思うことはありませんか。作品をじっくり観るよりも、作家や作品の解説を読む時間の方が長くなっていませんか。今回は、美術のことがよく分からなくても、作品を観て自由に感じたことを話すことで、一つの作品の見方がさらに深まる「対話型鑑賞」を紹介します。

### 「対話型鑑賞」ってなに？

「対話型鑑賞」は、グループで対話を重ねながら作品を読み解いていく鑑賞方法です。1980年代に、ニューヨークの近代美術館で子どもの思考能力・対話能力向上のため開発されました。現在では、美術・教育の場だけでなくビジネス・医療など様々な分野で注目されています。

### 作品を観て、自由に話そう

「対話型鑑賞」は、ファシリテーター（進行役）がグループの対話を誘導し、鑑賞者それぞれの感想や気づいたことを話し合い、共有しながら作品を鑑賞します。作家や作品の情報をもとにするのではなく、先入観を持たずに作品と向き合います。難しく考えず、自分の見方で鑑賞しながら、自由に考え、自由に発言して良いのが対話型鑑賞です。

### 1人では気づかない新たな発見

「対話型鑑賞」では、作品に対する自分の考えを他者とのコミュニケーションによって深めていきます。そのため、他者の考えを否定せずに、話を受け止めましょう。「対話型鑑賞」では、正解を導き出すのではなく、それぞれの感じたことをもとに対話することが大切です。作品を観て感じたことを共有することで、1人では気づかないことに「なるほど」と新たな発見があり、作品の見方がさらに深まっていきます。

### 是非、体験してみてください

「対話型鑑賞」では、1人で鑑賞するときとは違った楽しみ方を体験できると思います。現在、多くの美術館で「対話型鑑賞」が行われています。日南町美術館でも「対話型鑑賞」を体験することができます。希望される方は日南町美術館までお問い合わせください。

